

会員各位

協会だよりー278(2月号)

JCRA(Japan Catalyst Recovering Association)

触媒資源化協会

トピックス：

● 第227回月例会（講演会・新年会）の開催

日時：平成28年2月4日（木）15時00分～20時00分

場所：如水会館

講演：1. 福岡 淳氏（北海道大学 触媒科学研究所 教授）

「メソポーラスシリカ担持白金触媒による低温エチレン分解」

2. 和田 元氏（東京大学 大学院総合文化研究所 教授）

「植物が行う光合成とそれを利用した物質生産について」



町田市時代祭りでの流鏝馬

- 一. 協会よりのお知らせ
【実施済事項】
- 二. 原子番号113元素、理研に命名権認められた！
- 三. 事務局より（二年度の予定）
- 四. 出雲大社の旅 鶴岡 武
- 五. 【雑学】町田を歩く4（広袴・真光寺から黒川へ）

1. 協会よりのお知らせ

【実施済事項】

- ① 協会だよりー277（1月号）をメール&郵便で送信（12／25）
- ② 「創立40周年記念誌」（創立記念 協会のあゆみ 皆様のおかげで40年さらに新たな未来へ）を送付いたしました。（1／8）
- ③ 第八回運営委員会の開催
日 時：平成27年1月21日（木）16：00～17：00
場 所：堺化学工業㈱東京支店会議室
出 席：運営委員、第227回月例会幹事、専務理事
- ④ 経済産業省・化学課・非鉄金属課訪問、会長と専務理事（1／22）

⑤ 第33回 JSCRA 会 (協会ゴルフコンペ) のご案内 (1/22)

開催日：平成28年4月11日(月) 9:15から5組予約(大藤さんに依頼)

コース：多摩カントリークラブ(東京都稲城市坂浜3360)

幹事長：大藤俊洋(JX金属株OB)、幹事：宮崎隆史(株徳力本店)、小林尚道
(日本無機化学工業株OB)

コースの特徴：



1962年に都内にオープン。都心より30~40分の近郊にある緑豊かなゴルフコースです。フラットで広いフェアウェイのレイアウトは、丘陵コース特有な谷越えもなく、グリーンは、微妙な傾斜で慎重なパットが要求されます。

⑥ 2015年度資源化実績の報告提出の期限(1/30)

2月下旬には調査・技術委員会を開催し討議、編集業務に入ります。

[予定事項]

① 第227回月例会(講演会・新年会)

日時：平成28年2月4日(木曜日) 15:00~20:00

会場：如水会館(千代田区一ツ橋2-1-1)

講演：1. 福岡 淳氏(北海道大学教授)

2. 和田 元氏(東京大学教授)

新年会：講演会終了後、17:30より別室にて立食の新年会を開催いたします。

☆ 福岡 淳(ふくおか あつし)さんの略歴

1982年 東京大学工学部合成化学科 卒業(内田・干鯛研)

1985年 同大学院工学系研究科博士課程中退(内田・干鯛研)

1989年 工学博士(東京大学)

1991年 東京農工大学工学部講師を経て助教授

2007-2015年 北海道大学触媒化学研究センター 教授

2015年 北海道大学触媒科学研究所 教授

専門：触媒化学、バイオマス変換、有機金属化学

☆ 和田 元(わだ はじめ)さんの略歴

1981年 東京農工大学工学部 卒業

1983年 東京大学大学院工学系研究科応用化学専攻修了

1990年 理学博士 (東京大学)

1999年 九州大学大学院 理学研究科 生物科学専攻 助教授

2009年 東京大学大学院 総合文化研究所 広域科学専攻 教授

専門分野：植物生理学 Plant Physiology

研究テーマ：植物生理学, 脂質生化学, 分子生物学

Plant Physiology, Lipid Biochemistry, Molecular Biology

② 第二回役員会

日 時：平成28年2月8日 (水) 10:00~12:00

場 所：(株)徳力本店会議室

出 席：会長、副会長、理事、監事、専務理事

議 題：2016年度の方針、他

③ 第一回調査・技術委員会

日 時：平成28年2月24日 (水) 15:00~17:00

場 所：太陽鋳工(株)会議室

出 席：調査・技術委員、専務理事

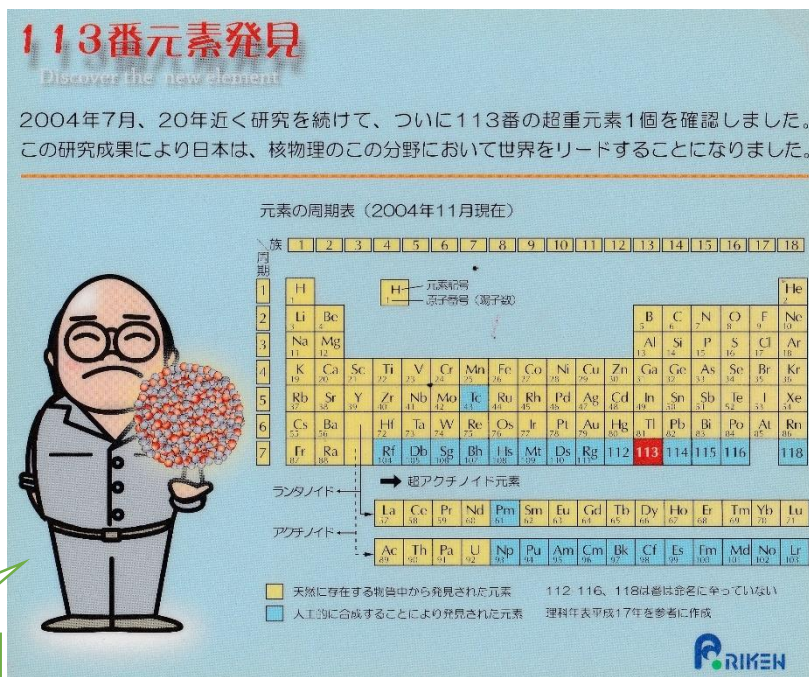
議 題：2015年資源化実績の編集方針、他

2. 原子番号113元素、理研に命名権認められた！

昨年末の12月31日にビッグニュースが飛び込みました。理研の森田浩介さん（九州大学大学院理学院教授）を中心とする研究グループが発見した「113番元素」を、国際機関IUPAC（国際純正・応用化学連合）が新元素であると認定しました。2004年、2005年に続き、昨年8月に3度目の合成とその新たな崩壊経路を確認することに成功しました。これに伴い、森田グループには発見者として新元素の命名権が与えられます。欧米諸国以外の研究グループに命名権が与えられるのは初めてです。

10年前の平成18年12月4日に開催された当協会の第191回月例会（見学会）は理研の和光研究所でした。その時、土産にいただいたのが森田浩介さんのイラストが印刷されたマウスパッドでした。2004年の最初に確認実験が成功し、IUPACに申請した時の記念と思われます。認定されるまでに10年もかかるのですね。

見学時の土産のパッド



3. 事務局より (2月度の予定) 出勤予定: 12日間、赤・個人予定あり。

日	月	火	水	木	金	土
1/31	1	2	3	4	5	6
× (C)	×	○	○	227 月例会	○	×
7	8	9	10	⑩	12	13
×	役員会	○	× (C)	建国記念日	○	× (W)
14	15	16	17	18	19	20
×	×	○	×	×	○	×
21	22	23	24	25	26	27
×	×	○	調査委員会	△	× (W)	×
28	29	3/1	3/2	3/3	3/4	3/5
×	×	○	×	×	○	×

4. 出雲大社の旅

平成26年の秋 鶴岡 武

子供達からの金婚式祝い(結婚50周年)に2泊3日、出雲大社旅行を提供されたが、入院等で延期しやっと実現した。平成26年10月20日に夫婦で東京からの新幹線グループに新横浜駅で合流、岡山駅で下車バスに乗り換える。岡山県は秀吉時代、宇喜多秀家の領地だったが関ヶ原の合戦後池田の支配地となる。山陽道から岡山道、中国道、鳥取自動車道を経て鳥取砂丘へ向かう。途中桃太郎の里を通り、美作の宮本武蔵生誕地を抜け、鳥取に入る。夕方鳥取砂丘に着き、専用の長靴に履き替え起伏のある砂丘から海岸まで歩いたが、疲れるは、薄暗いではひどい目にあった。今夜の宿、三朝温泉(みささおんせん)に向かうも車窓から、「神話の里、因幡の白ウサギ海岸」を楽しむ予定が真っ暗で何も見えず残念。この温泉は850年の歴史があり、三徳山が近く国立公園の一部となっている。夕食にズワイガニ、サザエの壺焼き、ホタテの浜焼きなど日本海の幸を堪能!世界有数のラジュウム含有量を誇り、自然の治癒力を高めると言われる名湯で長旅の疲れを癒した。

翌日早めに出発、国道9号線を西に向かい、お城造りで目立つ、お菓子の寿城で買い物をする。58万人と日本一県民人口の少ない鳥取県から、74万人と二番目に少ない島根県に入る。テニスの錦織選手の故郷の由初めて知った。

松江城外周にある堀川めぐり遊覧船を楽しみ、船上からの松江城天守閣の眺望も素晴らしかった。船着き場近くの小泉八雲旧居や、武家屋敷散策もできた。尚、当城歴代藩主は初代が秀吉家臣の堀尾家、次が京極氏となり、最後が家康の孫の松平家が継ぎ明治に至っている。次にバスは山陰道の安来市を通り出雲市に入



る。大社前で昼食解散し名物「出雲そば」を賞味したが、変わった食べ方で、そば丼にだし汁をかけて食べ、美味であった。

本旅主目的の出雲大社拝殿が始まる。食事前に添乗員が集印帳を集め記帳を引き受けてくれ助かった。一の鳥居、二の鳥居から、三の鳥居で本殿近くに進むと、専用ガイドが案内してくれる。伊勢神宮は20年に一回、出雲大社は60周年で式年遷宮がされ、明治14年、昭和26年、と今年行われた。



旭川、高足川、吉井川の三本があり、竹下夢二の郷里らしい。野見宿彌神社や大国主命とウサギの像前を通り、本殿に向かう。仮拝殿に昇殿して団体祈寿で肌守り、お神酒の授与や、巫女舞の鑑賞後、人気の神門通りや、ご縁横丁を散策した。大社は何と言っても、長さ13米、重さ4,5トンの日本最大級の注連縄である。ところで、出雲大社は伊勢神宮と異なり、

家紋は菊の御紋でなく、亀甲紋となっていた。皇室直轄ではないからか？ここに古い話を調べてみたら、「古事記」によると遙か昔、天上から出雲に降りた天照大御神の弟スサノヲ命は八岐大蛇（ヤマタノオロチ）を退治し、ここに住み付き其の子孫が、因幡の白兔で知られる大国主命である。しかし「国譲り」記述では天照大御神に求められ、出雲の国の譲渡で地上支配を止め、神々の世界を仕切ることとなり、大きな住処を求めそれが出雲大社とされており、今では縁結びの神、福の神として名高い。平成26年84代目の宮司の長男、千家国麿氏と高円宮家次女典子女王殿下との御結婚は衆知の事だが、確かガイドから130代(?)と聞き、今上天皇(126代)より古い家柄と聞いた。拝殿終了後又バスで穴道湖沿いを走り、松江市を抜け中海の真ん中を島と橋で渡り、境港へ出た。この橋は日本一急こう配で知られ、大きな船も下を通過できる。今夜の宿は白イカや旬魚を使った夕食で日本海にほど近く珍しい「塩湯」の皆生温泉（カイケオンセン）に泊まる。三日目は最初安来市の足立美術館へ行く。地元出身の実業家、足立全康の設立で、名園と名画で知られている。庭は五万坪の日本庭園、枯山水、白砂青松、苔、池庭は歩を進める度目前に広がる閑雅な風情に目を見張る。特に後方の山並みが一体となり、岡山の後楽園より立派である。館内には、横山大観をはじめ、河合玉堂、上村松園、伊東深水、鏑木清隆、等近代日本画壇の巨匠たちの作品1500一点を所蔵。中でも役120点を超える横山大観のコレクションは著名で、常時20点前後が展示されている。また、北大路魯山人の陶芸品もあった。近くで買い物後、水木しげるの出身地で「妖怪の町」としても名高い境港へ。水木しげるロードは妖怪ブロンズ像をはじめお店も、駅も交番もはたまた外灯から公園まで何から何まで妖怪づくしの町である。ロード入り口でネズミ男像が出迎えてくれ、パン屋の店頭には各種妖怪図柄パンが並び、通りにゲゲゲの鬼太郎がおり、人形の縫いぐるみと思ったら歩きだし、若い子が悲鳴をあげていた。子供も大人も楽しめる街だが、最盛期ほどの賑わいは無い。再度バスで岡山に出、新幹線で帰路に付いたが、天候にも恵まれ興味深い三日間でした。

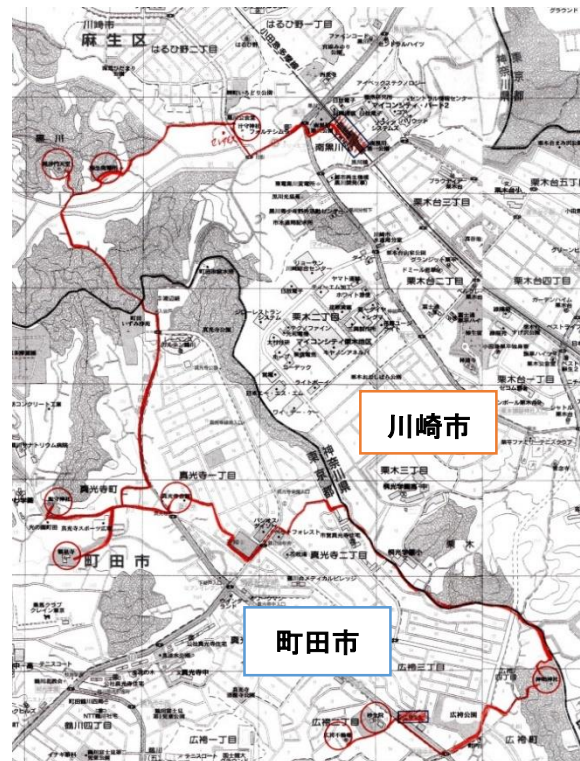
以上

5.【雑学】町田を歩く4 (広袴・真光寺から黒川へ)

広袴・真光寺と黒川は小高い丘陵で境を接しているお隣さんだが、広袴・真光寺は東京都町田市の鶴川地区にあり、幕末には小野路村を長とする組合村として真光寺・広袴と一緒に配下に有った黒川は神奈川県川崎市麻生区の柿生地区にあり他県同士となりました。今回のフィールドワークは鶴川駅より真光寺公園行きのバスに乗り「広袴中央」のバス停で下車、広袴にある寺社仏閣からスタートし、黒川までの訪ねた場所とルートは右図の赤丸と赤線で示しました。

《妙全院》町田市広袴 2-14-23

鶴川四丁目団地のほぼ坂下にあります。



曹洞宗不動山妙全院といい、寛永 12〈1635〉年の開基で、旧広袴村の住民の菩提寺です。『本尊 釈迦、木座像高八寸。現在は糸引観音を本尊としている。平安時代、楓王女、ゆえあって、この地に流罪になり、糸を紡ぎ終われば罪を赦して都へ呼び戻す

べしといわれここに来た。ところが、どれだけ紡いだらよいかわかなくてこなかったの、ついに都に帰ることができず、それを宿命と知って、二五の観音菩薩を刻んだが、その一体がこの寺の観音像であるとの伝説がある。しかして、この伝説はこの地方の養蚕と結びつき、糸引き観音信仰となった〈町田市史より〉。』

《広袴不動尊》町田市広袴 2-14-47

国士舘大学鶴川キャンパスの真下辺りにある、妙全院所管の小さな不動堂です。

『その昔六部が、不動様を入れた厨子を下ろして休憩し、再び担ごうとすると重くて背負えなかったことから、お不動様は、この地にいたいのだと悟り、小さな社を建てて祀ったという言い伝えがある〈鶴川村誌〉』
[六部：回国巡礼僧] (歴史民族用語辞典)

広袴を通る鶴川街道は、鶴川団地群のある丘陵と鶴川・柿生を隔てる丘陵〈鶴川台尾根緑道〉の間を流れる真光寺川にほぼ沿っています。不動尊に別れを告げ、私たちは鶴川街道・真光寺川を横断して鶴川台尾根緑道方面



に向います。

《神明社》町田市広袴町 444



広袴の住宅地を通り抜け、かなり急傾斜の道と石段を登ると神明社に着きます。『創建の年代は明らかではないが、嘉永 7 (1854) 年の「村差出明細帳」に神明社とあり、『風土記稿』に小社の儀故旧来より神主無く、村内妙全院 (別当) で守護していたとある。昭和 22 年氏子の労力奉仕により山を切り開き、現在の地に本殿覆宮、幣殿 (洗心舎)、拝殿を建立して昭和 24 年 11 月遷宮祭並竣功奉祝

祭が斎行された。昭和 29 年には宗教法人となり、さらに平成 7 年には拝殿が大改修された。』〈境内掲示板より〉

《鶴川台尾根緑道》

神社の裏山はすぐに鶴川台尾根道となります。左の写真ではフェンスの外側が川崎市で道路側は町田市です。フェンスの下手にはサッカー J 1 の川崎フロンターレの麻生グラウンドがあり、古民家を改装したそば処 櫻屋もあります。緑道はこの道の先に続いて居ります。緑道は古くより利用されており、鎌倉古道早ノ道の尾根ルートと推定されています。



東京都と神奈川県
の県境にある緑
道。広袴の住宅群
が眼下に迫り、そ
の先には鶴川団地
や国士舘大学の鶴
川キャンパスが。



真光寺方面に向って尾根道を行くと、右下手に桐光学園の小中高一群が現れます。この高校からはサッカーでは横浜 F マリノスの中村俊輔選手、野球では東北楽天イーグルスの松井裕樹投手が出ています。尾根緑道を下り、真光寺十字路に有る「スーパー三和・鶴川店」でトイレをお借りし、缶コーヒーなどで休憩となり、近くの真光寺会館へ立寄ります。

《真光寺会館》町田市真光寺 1-27-1

(真光寺会館の由来、日露戦争後、真光寺は丘の中にある。村には知らない人はいない。五十戸程が農業を営み、皆、飯守神社の氏子であり、観泉寺の檀家である。公事は労力奉仕で進められ、隣村へは巾六尺の坂道を超えるか、土橋を渡る、歩く荷はかつぐか、駄馬、

荷車で運ぶ。明治41（1908）年、励精学校は廃校、鶴川尋常小学校が開校、文化の中心は大蔵に移る。

真光寺倶楽部は村人の文化交流の場として要望され、幸い多くの共有地を持ち、培われた奉仕の伝統により、励精学校の職員室を村人の肩で移築し、後に増築して完成する。・・・「表示板」による。）現在は地区の自治会の会館として使用されています。



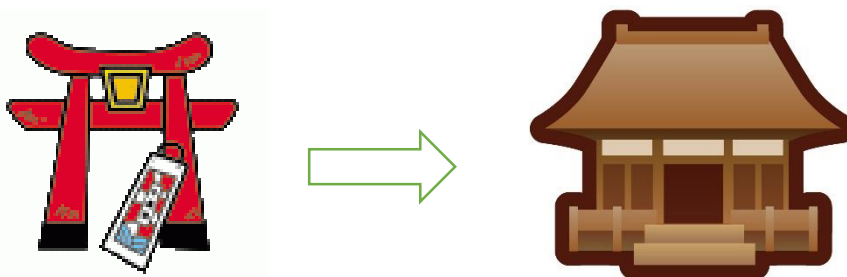
真光寺は今では、大型の新興住宅地として開発され大型店舗や近代的な住宅が立ち並んでいます。真光寺村の住民は皆、飯守神社の氏子であり、観泉寺の檀家であるのは一昔前の話でしょう。私たちは、再度、鶴川街道を横断して真光寺村の住民が皆、氏子であったという飯守神社へ向います。

《飯守神社》町田市真光寺町 189



祭神は興津彦^{おきつひこのみこと}命、保食神^{うけもちのかみ}でいずれも農業神です。武蔵の総社である府中の大国魂神社の総社例大祭（くらやみ祭）に「飯物」を奉納してきたことから、この社の名前が起ったとも伝えられています。神社の裏山の斜面には領主の旗本・飯田次郎右衛門の屋敷があったとの伝承もあります。

続いて真光寺村の住民が皆、檀家であったという観泉寺へ向います。



《観泉寺》町田市真光寺町 1210



曹洞宗の寺院で金山観泉寺といい、当地の地頭飯田右馬之助昌有が大坂夏の陣で元和元年（1615）に戦死、子息飯田次郎右衛門が父の菩提を弔うために、僧存祝を開山として創建したといえます。観泉寺は武相卯歳観音霊場四十八ヶ所 45 番です。武相卯歳観音霊場は宝暦 9 年（1759）に開創したといえます。現在、真光寺というお寺はありませんが、建立したときは天台宗真光寺と称し、宗派を天台宗より曹洞宗に、寺名を真光寺から観泉寺に改めたと言われていることから、真光寺が村名として残ったと思われます。

次いで真光寺の信号まで戻り、鶴川街道沿いに登ると左手に、町田いずみ浄苑〈霊園〉が現れます。いずみ浄苑を過ぎたところから街道から別れて左手の山道に入ります。この道が、江戸に行く近距離の布田道（甲州街道の布田宿まで）の名残とか。すぐに都県境となり、黒川に入るとしばらくは静寂な田舎道となります。

《毘沙門天堂》川崎市麻生区黒川



丘を下り、三沢川を渡り、さらに黙々と農道を上がってゆくと質素な毘沙門天堂が現れます。毘沙門天は北方を守るものとされ甲冑を着けています。ここの像は甲冑を着けていない珍しい像といわれています。境内に建立されているお地蔵様群の首がありません。これ

は明治初期の廃仏毀釈のおり、破壊されたといわれています。

《柿生発電所》 川崎市麻生区黒川 1554-2

最初は何でこんなところに水力発電所があるの？と思いました。川崎市の幹線の水道の落差を利用した水力発電所です。なるほど！川崎市の水道は相模川の水を相模原市と町田市を通り、長沢浄水場まで22km運んでいます。柿生発電所の場所の落差は約12mあるそうで、最大680kwの発電をしています。その先の丘の上には汁守神社があります。



《汁守神社》 川崎市麻生区黒川 1



神社の名前は、府中の六所宮（現大国魂神社）の「くらやみ祭り」の膳部の汁を、主祭神である保食神^{うけもちのかみ}が調理したのが由来と言われています。真光寺の飯守神社が大国魂神社の総社例大祭（くらやみ祭）に「飯物」を奉納してきたことから、ご飯と汁の対で、六所宮へ奉納してきたことが伺えます。

《セレスモス》 川崎市麻生区黒川 172

汁守神社の眼下にはファーマーズマーケット「セレスモス」があります。セレスモス（収穫する）というギリシヤ語とアグリカルチャー（農業）のAの字を組み合わせた造語が店名です。



産直の野菜が人気でいつも賑わっているそうです。JAセレス川崎の経営。ここで本日のフィールドワークは解散となる。帰りは小田急多摩線のはるひ野駅か黒川駅を利用するのが便利のようです。

記：小林尚道

【文責：専務理事】